

巖木中学校 学校便り

給食部 書記
結城 亜美さん

令和2年12月24日



巖木中教育目標

「主体的、協働的に取り組む生徒の育成」

文責：校長 古舘洋治

1 第2学期 終業式 12月24日(木)

新型コロナウイルス感染症防止のための生活にはなれましたか？

- ①毎朝の検温を忘れず行う。
- ②手洗い手消毒を小まめに行う。
- ③マスクは基本的に着用して、必要に応じて…などは学校でも家庭でも、常に…当然のようにやることになりました。

3学期の始業式では「一人一人がいきいきと活躍する、実り多い学期にしてほしい」と話しました。

それに加えて「自分の行動は自分で決めよ。為すべきことを自分で決め、それを為せ。」とも話しました。どうでしたか？

8月24日とちょっと早く始まった2学期、泊なし修学旅行・バス研修、作陶体験や魚の開き・魚の煮つけ体験、新人戦、駅伝大会、文化発表会、生徒会選挙…たくさんの行事とたくさんのみんなの努力がそこにはありました。

その中で、一人一人が活躍し、それぞれに活躍し、そして成長してくれたと思っています。「人権宣言」に2年生の「思いやり宣言」もありました。「人を傷つける言葉や行い」はありませんでしたか？あった人は、2度と繰り返さないようにしましょう。人は失敗から学びます。失敗したらすぐに「ごめん」と謝るいさぎよさも必要です。そのことをそのままにしておかず、「同じ失敗をしないぞ」と努力することが大事です。

令和2年を振り返って、さらに積み重ねるところや改善するところを考え、新しい年に生かせるようにしましょう。

年の終わりに今日は「掃除の話をする」「掃除を続けてすれば四つの心が育つ」と言われています。

一つは、決められた場所を心を込めてすると、その場所がきれいになります。それだけではありません。掃除をしているあなたの心もきれいになります。ですから掃除は心も磨くと言われていています。掃除をすることによって、その人の心も磨かれきれいな素直な心になります。

二つめは、心を込めて掃除をしていたら、いろんなことに気づきます。どんなゴミが落ちているか、どの場所がよく汚れるのかを見つけることができるのです。そのことから、色んなことに気づく心が育ってきます。

三つめは、掃除を続けていたらやさしい心が育ちます。汚れているところや散らかっているところを掃除するのですから、嫌なこともあります。辛いこともあります。それを辛抱して掃除をするのですから、他の人に対してやさしい心が育ちます。

四つめは、汚れている所や散らかっているところを綺麗にしますから、終わったあとはどうでしょう。頑張ったよかった。綺麗になって気持ちがいいなあ。汚さないでほしいなあという気持ちになります。さらに、きれいに掃除がされていたり、美しい風景をみたりすると、いいなあと思います。つまり感動する心が育つ



てきます。

「掃除をすれば四つの心が育つ」その心は、自分では気づきません。しかし、他の人から見れば分かります。「心は自分で育んでいくもの」です。

姿や顔などは、ある程度お父さんやお母さんからの遺伝というもので決められています。心は自分で育んでいくものだと思います。

休みに入ったら掃除をして、家や部屋をきれいにし、心や気持ちも整理して新しい年を迎えましょう。年末がチャンスです。

さて中学3年生の皆さん

いよいよ入試も近くなってきました。

「あとで、ああとけばよかった」と後悔するような冬休みにはしないでください。人に与えられる時間は、みんな平等です。どう生かすかはあなた次第です。

自分自身に「いま、頑張らなくていつ頑張る」自分が弱気になった時、自分を励ましてください。

入試は、1点でも多くとらなくてはなりません。自分の目標に向かって頑張ってください。

最後になりましたが、年末年始に事件・事故に遭わないように、新型コロナウイルス感染症防止についても、先生方の注意をよく聞いて、実行して、3学期に元気な顔を見せてください。



2 何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ！やがて大きな花が咲く！

この言葉は、シドニーオリンピック(2000年)マラソン競技で金メダルを取った高橋尚子選手の座右の銘です。高橋さんは、高校時代までは全くの無名選手(都道府県対抗女子駅伝、岐阜県代表、区間45位/47チーム中)で、よい結果を出せずに大変苦しんでいたそうです。そんな時に、当時通っていた岐阜商業高校陸上部監督の先生(中澤正仁氏)から贈られた言葉です。

“努力してもなかなか結果が出ないとイライラしたり落ち込んだり、時には途中で諦めてしまうこともあったりするかもしれない。しかし、そんな時こそ、今、自分は大きく根を張る時だと考え、諦めたり投げ出したりせず、自分を信じてコツコツと努力を重ねて実力をつけていくときだ。大きな根を張れば、いつかきっと大きな花を咲かせることができるはず。”こんな気持ちが込められていたようです。

3年生の中には、入試に向けて努力しているにもかかわらず、なかなか結果が出ずに焦ったり、心配になったりしている人もいます。そんな時があると思います。そんな時は、この言葉を思い出し、大きな花を咲かせるために、下へ下へと大きな根を伸ばし続けてください。



タンポポの根

有明抄

ノーベル平和賞を受賞したシュバイツァー（1875～1965年）は

「30歳を過ぎてからは人間への奉仕に一生をささげよう」と決意した◆たまたま見た、アフリカ・

コンゴ地方の悲惨な状況とこれを救うための人間が不足しているというパンフレットが啓示となり、30歳で医学を学び始める。38歳でアフリカに渡ると、幾多の挫折、苦難を乗り越え、晩年まで医療活動を続けた◆この献身的な生涯は1年前のきょう、凶弾に倒れたペシャワール会の中村哲さん（享年73）と重なる。治安が悪いアフガニスタンで30年以上医療活動を続けた。徐々に貧困対策に軸足を移し、「百の診療所より一本の水路」を提唱、干ばつを食い止めるため懸命に働いた◆ノーベル平和賞に値する歩みだが、なぜ続けることができたのか。日本に一時帰国した時の講演で、学生から「どうして今の仕事を」と問われ、中村さんは「やはり運命。さだめのようなものを感じる」と答えている。途中でやめても責める人はいなかったはずだ。一方で枯れた大地に緑が戻り、人々が実りを喜ぶ。労苦の成果がこれほど分りやすい仕事もなかっただろう◆人にはやはり「人を幸せにしたい」という本能がある。中村さんのような偉業はできなくても、思いは受け継ぎたい。一周忌に天命や献身、何より世界平和の意味を考える。（義）

2020.12.4

佐賀新聞社

手洗いの6つのタイミング

外から教室に入るとき



咳やくしゃみ、鼻をかんだとき



給食（昼食）の前後



掃除の後



トイレの後



共有のものを触ったとき

